

こんにちは

魚沼市議会です



平成30年第4回定例会 No.63



CONTENTS

定例会・議会の会派	2
特集 こんな課題があります	3
補正予算・議案賛否の状況	4
一般質問	5~12
常任・特別委員会報告	12~14
議会報告会・なごみカフェ	15
中学生議会を開催しました	16~17
市民の声・あとがき	18

〈発行責任者 議長 森島守人〉 広報編集特別委員長 高野 甲子雄 副委員長 星野 みゆき
委員 星 直樹 浅井宏昭 大桃俊彦 佐藤敏雄

堀之内高校 書道部「書道パフォーマンス」

新年の挨拶



議長 森島守人

謹んで新春のお慶びを申し上げます。

市民の皆様には、日頃魚沼市議会にお寄せいただきますご支援に対し、厚くお礼申し上げます。

昨年、魚沼市は異常気象に見舞われ、全国でも6月の大阪府北部地震、7月の西日本豪雨、9月の大型台風21号、北海道胆振東部地震など、自然災害の多い年でありました。

一方では、2年ぶりにノーベル生理学・医学賞を本庶 佑教授が受賞、2025年万博の大阪開催も決定、なまはげのユネスコ無形文化遺産の登録決定など、うれしいニュースも多くありました。

今年は、国を挙げて歴史に残る年を迎えることとなります。「国の内外、天地あまねく平和が達成されるように」との願いが込められた「平成」から、新たな元号へ改元が行われます。

新たな年を迎え、私ども議会も市同様に、市民が安心安全に暮らせる社会が第一義と考えており、直面する人口減少問題等多くの課題に取り組み、市民の負託に応える所存であります。

結びに、本年が災害のない穏やかな年となりますことを願い、市民の皆様のご健勝をご祈念申し上げますとともに、今後ともご指導、ご協力賜りますようお願い申し上げます。新年のご挨拶といたします。

※なお、市議会議員の年賀状につきましては、公職選挙法の規定により、自粛をさせていただいておりますので、ご理解を賜りますようお願いいたします。

第4回定例会報告

平成30年第4回定例会が、12月5日から21日までの17日間の会期で開催されました。

議会初日に、一般会計補正予算をはじめ5つの補正予算を可決しました。

12月6、7日には、14人の議員から市政全般にわたる一般質問が行われました。6日には小出特別支援学校による「なごみカフェ」でのコーヒーサービスや生徒が作成した製品販売もありました。

21日に最終日を迎え、請願1件の不採択を除き、条例の一部改正など全議案を可決しました。

*議案賛否の状況は4ページをご覧ください。

議会の会派をお知らせします

※
12月21日付で新しい会派が結成され、構成が変わりましたのでお知らせします。

○ 代表者

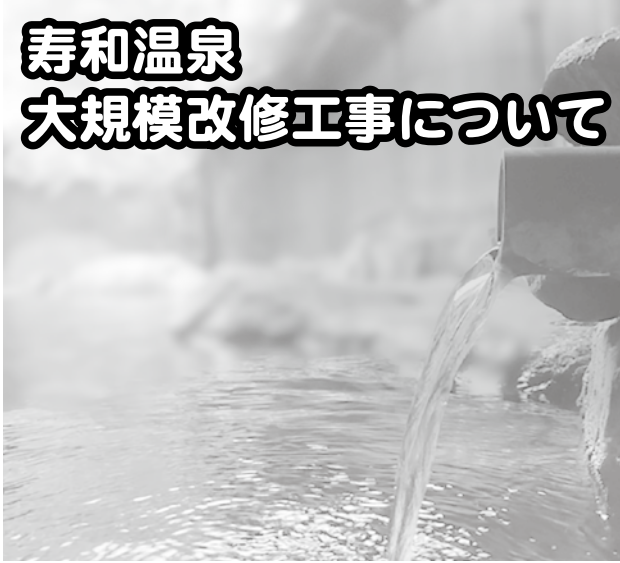
名称	しんせいクラブ	魚沼輝成会	創生市民の会	日本共産党	みらいの風	会派所属なし
所属議員	○ 関 矢 孝 夫 富永三千敏 渡 辺 一 美	○ 遠 藤 徳 一 星 直 樹 志 田 貢 本 田 篤 森 山 英 敏	○ 佐 藤 敏 雄 岡 部 計 夫 大 平 栄 治 佐 藤 肇	○ 大 屋 角 政 大 平 恭 児	○ 大 桃 俊 彦 浅 井 宏 昭 星 野 み ゆ き	大 桃 聰 高 野 甲 子 雄 森 島 守 人

※会派とは 基本的な理念を共有する議員で構成する政策集団です。魚沼市議会では2人以上で会派を結成することができます。

特集

こんな課題があります

寿和温泉 大規模改修工事について



平成30年度は露天風呂棟を予算額1億1,500万円をかけて改修。

平成31年度はヘルスセンター棟(室内浴場)を概算工事費3億円で調整中。

平成32年度はプール棟を概算工事費4億円で調整中。

3カ年をかけて大規模改修予定ですが、市民からは「費用対効果はどうか」「階段のないコンパクトな建物にしたらどうか」の声も上がっています。

市内5スキー場の 今後について



奥只見丸山スキー場を除く、市内5スキー場は平成31年10月31日で市との賃貸契約が切れます。

それまでの期間に限り、市が予算の範囲内でシーズン前の索道施設、圧雪車の整備を行うこととなっています。

その後については、将来の状況、推移を見つつ、時期を見て判断する予定です。

新ごみ処理施設の 進捗について



魚沼市は、平成7年度に現在の施設を供用開始し、平成20～22年度に大規模修繕を行い、平成35年度までの延命を図ってきました。日量処理能力は95トンです。

南魚沼市は、平成16年度に供用開始し、平成36年度までの使用予定です。

こうした中で、国・県から広域化への指導を受け、平成27年度に湯沢町も含めた二市一町で「新ごみ処理施設整備基本構想」を策定。

建設規模は、概算で日量処理能力140トン、建設費150億円程度を想定し、平成37年度の供用開始を目指しています。

平成28年度に建設候補地の公募を実施し、3地区からの応募がありましたが、いずれも周辺地区の同意が得られず、その後、行政主導による選定作業の結果、平成29年度に南魚沼市の国際大学敷地内を建設予定地としました。

一部地域から、建設反対の請願が南魚沼市長・議会あてに提出されましたが、現在は、関係地区住民に問題点の解消策を含めて説明会を開催中です。



消費税率10%の影響緩和策を問う



佐藤 肇

答 中小企業への融資は過去の実績を踏まえ予算計上する

問 消費税率が来年10月から10%となること決定された。

1 市発注工事で、来年10月以前の契約でも納期が10月以降となるものは、税率10%で予定価格を設定して発注するの。

2 来年末にかけ、消費の落ち込みから運転資金不足が懸念される。平成31年度予算において市内事業者の資金融資枠を確保する必要があると思うがどうか。

答 1 未だ国・県から通知が示されていないが、前回5%から8%に改正されたときと同じ運用だとすると、10月以降の引き渡しの場合には10%課税となる。積算段階から納期や工期を考慮した予定価格の設定を行いたい。

2 平成31年度予算では、過去の融資実績を踏まえた融資枠を考えている。

外国人受け入れ準備を問う

問 今後、観光や就労で魚沼市を訪れる外国人の増加が見込まれる。

1 市の窓口などで外国語による対応力が求められる。状況はどうか。
2 各種看板や表記を英語併記とする対応が遅れている。どうするのか。

答 1 現在は日本語がある程度理解できたり、会社の方が同行する外国人が多いので、大きな不都合は生じていない。日本語が話せない外国人が来庁された場合は、パソコン、タブレット等の翻訳機能を活用している。
2 外国人観光客への観光情報提供としては十分でない認識している。合併当時に設置した観光看板が経年劣化による更新時期を迎えており、その改修に合わせて多言語併記の看板設置をしなければならない。

既存庁舎の利活用を問う



星 直樹

答 空きスペースへの企業誘致も進めている

問 1 既存庁舎を利活用し、ベンチャー企業を誘致しないか。
2 大学や専門学校に施設を無償で貸出し、市内の高校生が魚沼で学べる場を設けるべきではないか。

答 1 まずは市民サービスが提供可能な利用方法を検討している。空いたスペースの有効活用としてベンチャー企業も含めた企業誘致も進めている。
2 ひとつの方法として検討する。ただし、大学等による大規模・長期の利活用についてはマッチングが難しいと思うので、方法も含めて研究する。

観光客の誘致強化施策について

問 1 市内の体育館、グラウンドを整備し、関東方面からの合宿を誘致しないか。
2 長期合宿中に市内で大会を開催し、魚沼の食、文化をアピールし、再来訪を目指すか。
3 商工観光課にインバウンド・誘客に特化したスペシャリストを置き、

答 1 市の判断で処分できる1キログラム当たり8,000ベクレル以下の汚泥を早急に処分すべきではないか。
2 早急に周りを鉄製の枠で囲むべきでないか。

観光客誘致を強化してはどうか。

答 1 市民の利用と調整したうえで合宿に活用いただいている。
2 宿泊事業者や地域の方々が中心となつて大会を開催していただければ、行政として支援できる面もある。
3 魚沼市観光協会にその役割を担っていただけるよう、連携・支援していく。

旧大沢下水処理場の放射性セシウム汚泥の早期処理を

問 1 市の判断で処分できる1キログラム当たり8,000ベクレル以下の汚泥を早急に処分すべきではないか。
2 早急に周りを鉄製の枠で囲むべきでないか。

答 1 引き続き当事者である東京電力ホールディングス株式会社に対応していただくよう働きかけていく。
2 地元自治会から鉄製パネルで囲ってほしいとの要望をいただき、設置に向けて検討している。

寿和温泉大規模改修工事を問う



大平 栄治

答 改修により既存施設の長寿命化を図る

問 1 地域要望に応えるため、現在の露天風呂棟に内湯を併設できないか。

2 現状の計画では、施設規模が変わらず赤字削減につながらない。地元で指定管理できるコンパクトな施設にして、残せる施設としないか。

答 1 露天風呂棟に内湯を建設するとすれば、現在のヘルスセンター棟が不要となり、建設時に活用した補助金の返還や解体撤去などに多額の費用がかかる可能性がある。また、新たな施設の建設には県との協議や市民との意見集約に時間がかかる。現段階では、改修による既存施設の長寿命化を図る計画により進めたい。

2 建設費や維持運営費等を含めたうえで、利用者数などがどのような状況になるか、今後検証作業を進め

ていく。

市発注工事の監督と検査体制を問う

問 1 魚沼市斎場外構等整備工事の増額変更とした廃棄物処理と沈殿槽水処理は、数量や工事の実態を証明する写真がない。全く認められない。

2 市の財源を使って実施した工事で、監督員はその証拠を残す義務がある。市長は「写真がなくてもよい。目視でよい」と言って全く職責を果たしていない。市長はどう責任を取るのがか。

答 1・2 数は少ないが状況写真はあるので、実態がないものとは認識していない。数量計算も最終的にマニフェストの重量で行っている。

認知症対策を問う



星野みゆき

答 早期発見、早期受診につながるよう地域支援を進める

問 2025年には、認知症患者は700万人前後に達し、65歳以上の高齢者の約5人に1人を占めると言われている。認知症になっても、住み慣れた地域で暮らし続ける魚沼市にしていくため、次のことを問う。

1 認知症サポーター養成講座を開催した小中学校はあるのか。

2 認知症サポーター養成講座を終えた方々に登録してもらい、認知症の方を支援するために地域で活動できるような登録システムが必要と思うがどうか。

3 認知症は早期発見、早期受診が重要といわれている。今後、認知症健診の助成に取り組む考えはあるか。

答 1 今年度は中学校1校、過去には中学校2校で計9回開催している。好評だったので、今後も実施いただけるよう働きかけていきたい。

2 研修修了者に認知症サポーターを養成する側になっていただく「認知症サポーターキャラバンメイト」に登録をお願いしている。できる範囲で、講座の講師や認知症高齢者声かけ訓練などの事業に協力いただいている。

3 健診実施について医療機関や医師会の先生方と相談し、検討する必要がある。



認知症サポーターは認知症の人やその家族を支え見守る応援者です

問 1 参加者が増加した理由は何か。また、この参加人数の維持方法は何か。

答 1 ほかの大きなマラソン大会や市内の行事とあまり重ならなかったことが挙げられる。参加者を維持していくには、開催時期を固定することや、ランナーの皆さんから魚沼らしさを感じていただき、地域の方には開催を楽しみに応援していただける大会として継続できるように、実行委員会において協議していく必要がある。

2 市内の申込者数は大きく増えています。



問 1 参加者が増加した理由は何か。また、この参加人数の維持方法は何か。

2 健康増進・運動習慣の普及が主体の大会だが、満足度はどうか。

3 現状にイベントを加え、魚沼の魅力発信として商工観光課との連携で大会を盛り上げるべきだと思いませんか。

はいないが、地元ランナーやスポーツ少年団の参加もあり、健康増進や体力向上に貢献していると考えている。

3 市外・県外の参加者数が約7割である。市民からも、誘客や出店を含めたおもてなしの仕方などの意見が寄せられている。観光分野との連携を深め、実行委員会の取り組みを支援していく。

魚沼コシヒカリ紅葉マラソンについて問う



大桃 俊彦

答 観光分野との連携を深め、取り組みを支援していく

山間部の雪について問う



浅井 宏昭

答 関係機関と連携し市民の要請に対応できるよう努めている

問 入広瀬、三ツ又のような山沿いの豪雪地では、大雪時は急病人や火事が起きて救急車、消防車を要請することになっても雪で救助に向かないということもあるのではないですか。このような時の対応を問う。

は反対の声はない。寿和温泉のコンパクト化の声もあるが、寿和温泉建設時の補助金の処分制限が完了してからでよいと考えるが、市長の見解を問う。

答 大雪時には、土木課など関係機関と連携し、通行確保をお願いしている。また、タイヤチェーンの装着など積雪時の対策をとっており、市民の要請に対応できるよう努力している。

寿和温泉大規模改修について

答 寿和温泉は地域住民にとっても観光など産業面においても重要施設として認識している。「もつと小規模な施設に」との意見もいただいているが、建て替えは費用的にも時間的にもデメリットが多いことから、今回は改修により施設の長寿命化を図り、熱効率の改善など経費縮減への取り組みも行っている。

問 住民からは「寿和温泉は高齢者にとつて憩いの場であり、福祉施設でもある」、「寿和温泉は入広瀬の最後の砦。絶対になくなってほしくない」等の声もあり、大規模改修に

新庁舎建設後の諸課題について問う



佐藤 敏雄

答 今年度末までに既存庁舎の活用案をまとめたい

問 あと1年4カ月後に新庁舎が完成するが、人口減少に歯止めがかからず、地方交付税の減額など厳しい財政が見込まれる。行政事務の効率化でコストの削減が必要と思う。

1 既存庁舎の譲渡などランニングコストを抑えるべきと思うが、活用計画はどうか。

2 守門と本庁舎以外の窓口はJ Aの支店などに委託してはどうか。

3 昨年度決算で職員の人件費が税収の111・5%となっている。ここ数年退職予定者が多いこともあり、新庁舎に統合することで、行政事務の効率化により人件費削減の好機、一時的な人材不足は民間事業者へ委託するなど大胆な機構改革で行政のスリム化を図るべきと思うが、市長の見解を問う。

答 1 民間活力を導入し、コスト削減を進める方策として、既存庁舎の一部を市民に活用していただきながら、空いたスペースを民間団体に貸し出すことも検討している。今年度末までに活用案をまとめたい。

2 本市の実情に即した新たな市民サービスのあり方も検討する必要がある。

3 定員適正化計画に基づき、業務の民営化や外部委託を進めて人件費の抑制を図るとともに、計画的な採用により行政運営を行ううえで必要な職員数としたい。
※このほか、山間地の買物困窮者対策について質問しました。

地域づくり中間支援活動ネットワーク化に取り組みないか



遠藤 徳一

答 民間主体となって設立・運営されることが望ましい

問 近年、自らの地域の活性化に向け、さまざまな人たちが担い手となって協働参画し、地域資源を生かしながら新たな職やサービスを創出していく活動や、それらに取り組み団体をネットワーク化した中間支援活動が進められるようになってきた。魚沼市も個々の分野に精通するだけでなく、各分野が支援し合い、上手な「掛け算」をしながら裾野を広げ高め合わなければならぬ。中間支援活動を促し、次のことに取り組みはどうか。

- 1 ソーシャルビジネスの創出
- 2 地域特産品の企画
- 3 地域が求める人材育成
- 4 スキー場や温泉施設等の観光資源の掘り起こしと運営
- 5 生活弱者対策
- 6 地域の自立

答 1 「地域資源を活かした産業の振興」を総合計画の重点施策に掲げており、各種支援策を用意している。その中からソーシャルビジネス

スに発展する事業者の出現を期待しており、中間支援組織がそうした事業者の取り組みを後押しすることが理想と考える。

2 中間支援組織での特産品開発が有益なビジネスとして見込まれ、共感する事業者が増えれば可能になるのではないかと。

3 関係団体と連携した取り組みを進めるとともに、広くアイデアやニーズを聴取しながら人材の確保と育成に努めていきたい。

4 観光事業者個々の取り組みでは観光振興、誘客に広がらないので、農家、商工業者、飲食店、住民などが参加し、また、スキー場や施設同士の連携を進め、地域全体にお客を呼び込む取り組みも必要かと思う。

5 コミュニティ協議会にその役割を担っていただきたたく、活動を支援したい。

6 まずは市民や団体が自らの課題として受け止め、その解決に向けて連携して取り組んでいただくことが重要である。

建設工事の検査について問う



大桃 聰

答 引き続き関係法令の遵守に努めていく

問 瑕疵担保請求している廃棄物処理の写真がほとんどない。市長は目視でも合格すると発言したが、検査要綱に違反するのではないか。

答 枚数は少ないが代表箇所での写真がある。検査ではその写真と監督員への聞き取りなどにより合格と判断しており、検査要綱に違反しているものではない。

小出郷図書館について

問 5,500万円もの大金で取得したのだから、ある程度の改修費をかけてでも市民のためになるように使うべきではないか。

答 1階にある「読み聞かせスペース」の場所に「市民交流スペース」を設け、読み聞かせスペースを2階

に移設する。また、3階は展示や学習室等の「多目的スペース」と「教科書センター」、4階は文化財等の「収蔵スペース」としての利用を考

えている。改修が必要な部分があれば対応していきたい。

市報11月10日号の表紙写真について

問 配布時に不適切と認識しながら、配布の差し止め等の措置を取らなかったのは職員の不作為ではないか。

答 気がついた時点では、既に嘱託員等への配達が開始されていたため、差し止めるということまで気が回らなかった。

放射能汚泥は東電に引き取り要求を



高野甲子雄

答 働きかけを継続し早急に処理したい

問 旧大沢下水処理場に仮保管しである、福島第一原発事故による放射能汚泥等の保管・処分方法について問う。

- 1 いつから仮保管されているのか。
- 2 どのくらいの量が保管されているのか。濃度別に区別されているのか。
- 3 いつまで仮保管しておくつもりか。
- 4 仮保管のための建物整備、安全対策等どのくらいの経費がかかっているのか。

- 4 放射線関連調査費用等で約1,300万円、施設の修繕等で約106万円かかっている。
- 入広瀬地域の人口減少・過疎化対策について

問 1 入広瀬小学校への入学児童が減り、存続が危ぶまれる。具体的な対策・施策は考えられているか。

答 1・2 人口減少は入広瀬地域に限らず市全体の課題として認識

- 3 平成23年9月から保管している。
- 2 7,871キログラムを保管している。濃度別に区分けして保管しているが、現在、再度濃度調査を行っている。
- 3 時期は明確に答えられないが、関係機関や東京電力ホールディングス株式会社への働きかけを継続し、早期に処理したい。

している。入広瀬地域においては来年度に地域の皆様による課題把握と解決策を話し合う「集落点検」を実施するほか、引き続きコミュニティバス運行の支援、地域おこし協力隊など外部人材の受け入れや交流などに取り組んでいく。

消防職員をなぜ国基準にできないのか



大屋 角政

答 現状で十分対応可能と認識している

問 最近、大きな自然災害等が増えている。これに対応するため消防職員等の充足を図っていかねければならない。国基準の職員数と魚沼市の職員数では大きな開きがある。これでは、防災、災害などに対応する消防力が不安である。なぜ、職員数をせめて国基準に合わせられないのか。

来ていると聞く。また、以前には、主催者等の連絡先を間違え、主催者側や間違つて電話がかかってきた市民が被害に遭つたと聞いている。この場合、広報のチェック体制はどうなっていたか。また、最終責任者は誰か。

答 国で示す消防力の整備指針により算出した数値と比較すると、充足率は60%となるが、財政力指数の単位費用からすれば低いとは感じていない。この算出方法では車両等の整備により単位が増えるので、現状で十分対応が可能と認識している。

広報紙のチェック体制は

問 最近では、表紙に不適切な写真が使用され、市民からクレームが

答 総務課担当者による編集後、係員と担当室長、課長がそれぞれ確認し、必要に応じて修正・訂正を行っている。最終責任者は市長であると考えている。今後は市職員だけでなく外部を入れたチェック体制についても検討する。

デイスポーターの推進を



本田 篤

答 上下水道料金の負担増などについて検討が必要

問 生ごみ粉碎機デイスポーターで下水道へ流下させる方式は、循環型社会の形成に向けて一役を担うものである。新ごみ処理施設の建設事業に合わせて、デイスポーターの推進をすべきと考えるがどうか。

厳しい。任期後半の市長ビジョンはどのようなもので、どのような政治手法や施策で取り組んでいくか。

答 デイスポーターの設置により、下水道管に詰まる恐れから水道水を多く使う必要があり、上下水道使用料が増えるなどの使用者の負担増も含め、下水道施設の維持管理や水質保全以外の点についても検討する必要がある。

任期後半の市長ビジョンについて

問 1 市長就任から2年が経過した。ここまでの成果と課題はどのようなものか。
2 住みよさランキングの下降など、今日の魚沼市を取り巻く状況は大変

答 4年間の任期で、選挙時の公約を予算編成のベースとして取り組んでいる。保育料の第2子以降無償化や子育ての駅かたつくりの開設などに取り組んできたが、さらに充実させ、働く場所づくりにも傾注していかねければならない。人口減少や税収確保も含め取り組んでいく。
市議会総務委員会報告の扱いについて

問 総務委員会から斎場における瑕疵担保請求の調査報告書がまとまった。市はどのように受け止めているか。

答 納付いただけるようお願いしながら進めて行きたい。

定員適正化計画を見直すべきだ



大平 恭児

答 見直す必要があると考える

問 1 これまで専門職を含む市職員の削減をしてきたが、業務量が増え多忙化になっているのではないか。

2 専門的な知識や経験を持つ職員が適正に配置されないと、柔軟に対応できない懸念がある。計画を見直すべきではないか。

1 ツ振興の計画を明確にすべきではないか。

2 市内スキー場は、青少年の健全育成や高齢者の生きがいづくり、健康増進にもつながっている。今後のスキー場の見直しは、多方面から検討を行うべきではないか。

答 1 職員の事務量は、県からの事務・権限移譲が進んでいるほか、多様化する市民ニーズなどにより増加している。

2 「働き方改革」関連で、平成32年4月1日から新たな制度が施行されることとなり、臨時・非常勤職員の任用根拠の明確化・適正化が図られる。これが計画の定員管理にも影響を及ぼすことになるので、計画を見直す必要があると考える。

冬季観光・スポーツ振興について

問 1 市として冬の観光やスポ

答 1 冬のレジャーに関する観光計画はなく、スポーツ振興策との連携も含め、今後の検討課題とする。

2 スキー場事業者等と協議しながら方向性を検討したい。

福祉灯油について

問 今冬は原油価格の高騰が続く。特に高齢者など低所得者は生活が大変厳しい。せめて要援護世帯への灯油助成を行うべきではないか。

答 灯油価格の推移の状況や降雪の状況等を総合的に判断して実施する。

都市計画マスタープラン等について問う



渡辺 一美

答 連携や調整を図りながら各計画を進めていく

問 1 魚沼市都市計画マスタープラン、魚沼市立地適正化計画、魚沼市地域公共交通網形成計画がどのような位置付けにあり、役割を担っているのか。

2 その計画ごとの協議会がどのように機能し、連携しているのか。

3 労働力人口が減る中で2040年に向けた持続可能なまちづくり、地域共生社会を実現するために、医療、介護、障害等の地域福祉計画と、公共施設再編整備計画と、これら3つの計画をどう結びつけて実行に移していくのか。

答 1 3つの計画とも、市の最上位計画である魚沼市総合計画に即して策定しており、整合性や連携を図りながら総合計画を進めていく役割を担っている。

2 各検討委員会や協議会等は、それぞれの計画策定や進行管理のために独立して設置されるものであり、相互に連携する仕組みは定めていないが、所管する各課においてほかの計画等との調整を行っている。

3 各計画と連携や調整を図りながら、地域共生社会の実現を含めた中で各計画を進めていく。

総務委員会報告

10月23日・24日

1 行政視察

●愛知県豊橋市

「防災コミュニティマップの取り組み」

モデル校区の地域住民自らが地域の危険箇所や安全な場所への避難路を確認しながら作成するため、実態に合った防災マップができ、避難所の設置場所や収容人数等、現状に即した計画につながると感じた。



「公契約条例について」

市の発注する事業における労働者の適正な労働環境を確保するため制定した公契約条例について、説明を受けた。

●愛知県春日井市

「公民連携による移動販売事業」

公民連携の移動販売事業を平成27年4月、市内4地区でスタート。平成29年9月からは2地区を追加した。市が約1年半かけて商圈調査、ニーズ調査、市内アンケート、販売地区ヒアリングなどを実施し、ビジネスベースとしてできると判断。民間の事業主体に車両購入費を補助し、それを販売事業者が無償で借り受けて実施しており、かなりの成果を上げていた。

11月12日

1 瑕疵担保請求に関する調査の報告について

7月から調査してきた本件について、次のようにまとめ、議長に報告書を提出することとした。

●魚沼市斎場建設事業に係る瑕疵担保請求に対する一連の対応の中で、

市側のいくつかの不適切な事務処理等の問題点が明らかになった。

●市が民法上の瑕疵担保責任での請求権を行使するのであれば、最終的には裁判において私債権を債務名義として強制執行ができる債権にする努力をしなければ、適切な回収努力を怠っていることとなる。

●市はこれらを踏まえ、管理及び検査に不備があったことを認め、市民の信頼を得られるよう、瑕疵担保請求の業務遂行に当たられることを望む。

12月11日

1 審査事件

請願第4号

国に対し「消費税増税中止を求める意見書」の提出を求める請願書

※不採択とすべきものと決定。

議案第1005104号・108号

※原案可決すべきものと決定。



2 現地調査

新庁舎建設工事現場を視察した。



新庁舎建設現場

福祉文教委員会報告

10月15日・16日

1 行政視察

●神奈川県横須賀市

「エンディングプラン・サポート事業」

引き取り手のない遺骨の急増に対応するため、生前に意志確認できる制度である。今後、当市でも検討が必要である。

●東京都立川市

「子ども未来センター・立川まんがばーく」旧市役所庁舎を活用し、福祉、子育て、交流、ボランティア、憩いの

場として活用されている。まんがぱーくは漫画のみ扱う図書館で、年代問わず多くの方が利用している。市民の憩いの場、高齢者の居場所づくりのヒントになる施設である。



「立川まんがぱーく」 押入れて読むこともできます

●群馬県前橋市

「イングリッシュビレッジ前橋」

廃校を活用し民間事業者が体験型英語学習プログラムを提供している。当市の公共施設再利用においては、民間の提案とマッチングするには、共同利用や分割利用などの対応が必要と感じた。

11月12日

1 審査事件

請願第3号

「中条第二病院・老健きたはら」の存続を求める請願について

※採択すべきものとし、新潟県に意見書を提出することとした。

2 行政視察の総括について

総括を行い、議長に報告することとした。

12月12日

1 審査事件

議案第1055、107号・109号
111号

※原案可決すべきものと決定。

2 魚沼市のちを支える自殺対策計画（素案）について

魚沼市健康づくり計画の大枠に従い、他県、他市に比べ高い自殺率の低下を目指し、計画を策定するもの。市の健康、保健、福祉、教育など全ての分野で情報を共有するとともに、市内事業者、市民などからの情報を確実に自殺防止の支援につなげていくよう取り組むとの説明を受けた。

3 学校現場における児童生徒のいじめ等の発生状況と対策について

委員から質疑があり、教育委員会では学校から数件のいじめ事案を把握しており、定期的に実施している児童生徒アンケートをもとに、学級の実況を指導主事を交えて点検、対策を検討している。また、不適応を起している児童生徒への対応を、学校教育支援員、教員OBが行っているとの報告があった。



4 その他

委員から、湯之谷小学校の校舎・体育館に不具合があるとの提起があり、本委員会で引き続き調査することとした。

産業建設委員会報告

11月6日・7日

1 行政視察

●茨城県つくば市

「つくばCLT実験棟」

国の補助を受けて建築された、つくばCLT実験棟を見学し、CLT（ひき板の繊維方向が層ごとに直行するように重ねて接着したパネル）の現状について説明を受けた。CLTの普及にはまだまだ時間を要するが、今後需要が広がれば、魚沼市の林業再生のきっかけとなる可能性もあると感じた。

●茨城県常陸大宮市

「道の駅 常陸大宮かわプラザ」

農産物のブランド化、地産地消の推進や、競争力のある特産づくりを通じて交流客の誘致を強化し、地域活性化と地域振興につなげる取り組みについて視察した。合併特例債を利用して、市の主導で自治体、地元JA、住民が一体となって観光交流人口を拡大した取り組みとして大いに参考になった。観光基本計画を策

定し、観光交流人口拡大を目指したように、これからの観光や農業政策については、ある程度市が主導し政策を展開していくことが重要であると感じた。



道の駅 常陸大宮かわプラザ

11月22日

1 行政視察の総括について
総括を行い、議長に報告することとした。

12月14日

1 審査事件

議案第112号

※原案可決すべきものと決定。

議案第113号

市有財産の貸付けについて
(大原スキー場)

貸し付けるスキー場区域を再検証した状況について説明を受けた。また、完全統括管理者、運輸局の認可状況や事業計画について質疑を行った。

※原案可決すべきものと決定。

2 「魚沼市景観計画(素案)について」及び「魚沼市公営住宅等長寿命化計画(案)について」

計画案の説明を受け、質疑を行った。魚沼市景観計画(素案)について委員から質疑があり、既存建物について、直ちに規制をかけるような内容のものではないとの説明を受けた。



議会改革 特別委員会報告

11月27日

1 平成30年度魚沼市中学生議会についての検証

今年度の対象校である小出中学校3年生による一般質問が行われた。(詳細は16、17ページを参照ください)

●事前事後アンケート数値によると、中学生議会の実施により魚沼市について興味を持つことができ、生徒の教育にも中学生議会が寄与していると思う。継続的にやっていきたい。

●執行部の答弁について、中学生に対してもう少しやさしい言葉遣いや、紋切り型のような答弁にならないように考えていただきたい。

●地域経済分析システムなどを活用し、魚沼市のデータを分析して内容を決めていったようだが、生徒も悩んだのではないか。日常生活で感じる疑問などもっと身近なものを取り上げることも決して悪くないと思う。

●事前講義やリハーサルなど、事前の準備は大変だったと思うが、当日

うまく質問できていた。今後も議会として中学生をサポートしながら、より質の高い議会をつくり上げていきたい。

※次年度は堀之内中学校が当番校です。

2 政務活動費について

インターネット等の公開に向け収支報告書の書式について検討した。



平成30年第2回議会報告会を開催しました

10月30日、31日、11月3日の3日間、6会場で議会報告会を開催しました。9月定例会で審議された議案について報告し、参加者の皆様と意見交換を行いました。

貴重なご意見を今後の市政運営に反映していくよう取り組んでまいります。

参加者総数 63名

■10月30日(火)

入広瀬会場：大栃山農林会館 8名 守門会場：松川生活改善センター 6名

■10月31日(水)

広神会場：雁坂下コミュニティセンター 14名 湯之谷会場：魚沼市地域振興センター 7名

■11月3日(祝)

小出会会場：大浦集落開発センター 15名 堀之内会場：下島区集落センター 13名

いただいた主なご意見 ～委員会で調査・検討していきます～

- 消防署のヘリポートが使用できないのはなぜか。
- 守門庁舎を支所にしないと聞いたがどうなのか。
- 新ごみ処理施設の建設候補地について反対意見が出ているが、見通しはどうか。
- 市内の臭気対策はどうなっているか。
- 熊出没の対策の周知はどうなっているか。
- FMうおぬまが聞こえない地区がある。
- 湯之谷小学校はできたばかりなのになぜ結露が発生するのか。
- 小中学生のカバンが重く、国の通知も出ていると思うが、対応はどうか。
- 魚沼基幹病院の外来の待ち時間が長く、救急も時間がかかる。診療科も減っている。対策はとられているか。
- 寿和温泉を残す方向で検討してほしい。
- 寿和温泉の多額な改修は疑問である。
- 市内のスキー場についてどう考えているか。
- スキー場の運営状況を把握しているか。
- 除雪体制の向上を望む。
- 平成29年に発生した豪雨災害による復旧工事はほぼできたが、復興工事はしないのか。
- 里山整備事業は厳しい状況だ。せめて燃料代の補助をしてほしい。
- 畑地の渇水対策について検討してほしい。
- 議会だよりには、決まったことだけでなく、事業の進み具合なども細かく載せてほしい。



小出特別支援学校高等部による「なごみカフェ」

小出特別支援学校高等部の生徒により、接客サービス学習の一環として、12月6日の本会議の休憩中に議員や職員にコーヒーを提供する「なごみカフェ」を実施していただきました。おいしいコーヒーと手作りの焼き菓子をいただいたほか、生徒が作成したお皿や絵はがきなどの製品販売もありました。

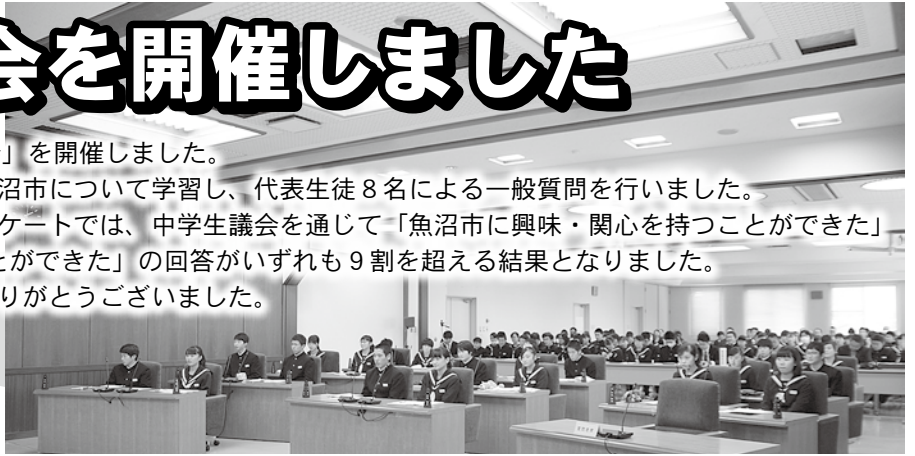
心温まる笑顔と丁寧な対応に、議員、職員ともホッと一息つく、「なごみの時間」を持つことができました。

生徒の皆さん、ありがとうございました。



中学生議会を開催しました

11月16日に「魚沼市中学生議会」を開催しました。
 今年度は小出中学校3年生が魚沼市について学習し、代表生徒8名による一般質問を行いました。
 開催後、生徒全員に行ったアンケートでは、中学生議会を通じて「魚沼市に興味・関心を持つことができた」「市議会に興味・関心を持つことができた」の回答がいずれも9割を超える結果となりました。
 小出中学校3年生の皆さん、ありがとうございました。



観光について



井口智洋 議員

問 1 温泉や自然景観を目的として魚沼市を訪れる観光客が約40%いる。温泉や自然景観を中心とした観光対策を今まで以上に進めるべきではないか。

答 2 温泉をテーマ化した飲食店や、特産物のユリを使った「ユリ風呂」の普及、稲アートなど、インパクトある取り組みをしてはどうか。

問 3 市内外へのPRの成果と課題は何か。
答 1 最近では枝折峠の滝雲や破間川ダムの雪流れなど新しい観光素材の開拓や、魚沼の食と健康をテーマにしたプログラムにも取り組んでおり、さらなる誘客につなげたい。

答 2 とてもすばらしいアイデアであり、住民や関係者と一緒に考えたい。
答 3 四季のPR動画やパンフレットを作成し、県内外の主要観光案内所に設置している。課題は観光客や宿泊客の増加につなげていないことであり、さらに情報発信に取り組んでいきたい。

土地利用や開発について



井口拓真 議員

問 1 市の面積のうち8割は森林である。豊かな森林をまちづくりにと

のように生かしているか。

答 2 「魚沼産森ひかり」の事業の成果と課題は何か。

答 3 さまざまな森林体験プログラムを実施しているが、子どもや若者が体を動かして楽しめる大規模なアスレチック施設も魅力的ではないか。

問 1 防災や減災のために森林整備を行っているほか、地元小中学生の自然体験や市外からの観光的交流人口の増加が見られ、地域活性化にもつながっている。

答 2 ホームページを開設し、体験プログラムやイベント、活躍する人々を紹介しており、体験に訪れる方が増えている。しかし、より多くの人に見てもらえる方法や、訪れる方々の受け入れ体制の充実が必要である。

答 3 新しい施設の整備には駐車場やアクセス道路なども必要となるので、そういった課題も含めて考えなければならぬ。

農業について



大久保結 議員

問 1 米の生産を重視しながら、全国トップクラスのユリの生産に、より一層力を入れるべきではないか。

答 2 ユリの生産性向上や知名度を高めるため、どのような取り組みをしてきたか。

答 3 例えばイベント日を増やしたり、文字やイラストを浮かび上がらせるよ

うユリの球根を植えるなどの取り組みはどうか。

問 1 生産拡大や品質向上に向けた取り組みに引き続き力を入れていきたい。

答 2 JAや県などと連携し、施設の整備を進め生産性向上を図っている。また、月岡公園での「ゆりまつり」やユリの香りがする一筆箋などもPRしている。

答 3 提案いただいた取り組みを参考に、JAやユリ生産者などと連携し、イベントの充実やPR方法について、市としてどういった応援ができるか検討したい。

空き家・空き店舗の利用について



谷内詩哉 議員

問 1 平成26年度末での調査では、空き家と判断された物件の約4割



(左)大平龍希 議長 (右)山之内優斗 議長

が適正に管理されていないという報告がある。現状はどうか。

2 市が実施している「空き家バンク制度」の成果と課題は何か。

3 空き家や空き店舗を活用したまちづくりを進めるよう、「魚沼の魅力がわかる交流カフェ」の出店により人の往来を増やす」などの方法について、どう考えるか。

答 1 現在把握している空き家は146件あり、ほとんどが所有者等により適正に管理されている。適正に管理されていない割合は、以前より減少している。

2 19件の売り物件登録をいただき9件の成約があった。一方、賃貸物件の登録が全くないので、利用したいとの希望に応えられないなどの課題がある。

3 交流カフェはよいアイデアだと思う。民間の方々が取り組めるような方を策を市民と一緒に研究したい。

らるるら納税について



平井琴菜 議員

問 1 昨年度から億単位の受け入れ額となっていることから、今後も財源確保のために重視すべきと思うが、どう考えるか。

2 より多くの寄附金を集めて市政に生かすため、返礼品やPR方法をどのように工夫していくか。

3 例えば、商店街で製造・販売されている食品・商品をセットにしたもの

を返礼品にしたり、PR動画の作成や関東圏に限定したCM放送などが考えられるがどうか。

答 1 財源確保の観点もあるが、それ以上に市内で生産された返礼品が多く使われることで市内事業者が増収となり、市の財源増加につながると考えている。

2 市の特産品のほか、市を訪れていただける体験型の返礼品を増やす工夫をしている。また、SNSでの発信やふるさと納税イベントへの出店などを行っている。

3 事業者間で合意できればセット化も不可能ではない。PR動画やCMについては、慎重に検討すべきである。

教育について



井口佳奈枝 議員

問 1 市は子どもたちの学力を上げるためにどのような取り組みをしているか。

2 岡山県和気町ではボランテアを集めて公営塾を開き成果を上げている。魚沼市でも同じような教育支援が可能か。

3 小中学校統合により、1校当たり使えるお金が増えて教育環境の充実や学力向上にもつながると思うがどう考えるか。

答 1 ハイパーQJという調査で学習に集中できる環境づくり、タブレット端末を用いた映像や音声を使った

効果的な授業や、先生方の研修を行っている。この結果、今年度の全国学力・学習状況調査では、本市の中学3年生は全国平均を上回る成果を上げている。

2 市内でもボランテアの方がテスト前に勉強を教えている地域や学校もある。

3 適正な規模や通学区域を維持することが重要である。学校環境の改善は、全ての学校に対して進めている。

人口問題について



井口遥心 議員

問 1 将来的に人口が減少していく中、市外から人を呼び込むことが大切である。市はどのような取り組みをしてきたか。

2 市では「Uターン若者定住就職奨励金」など市内への定住や就職を促すためのさまざまな制度を導入しているが、成果と課題は何か。

3 成果次第では、奨励金の金額や対象、支給期間の見直しが必要だと思うが、財源も踏まえてそれが可能か。奨励金を増額することは可能か。

答 1 働く場所として魚沼市を選んでいるだけける環境整備や、出産・子育て費用の軽減、首都圏の小中学生の自然体験などにより市へ来てもらう取り組みをしている。

2 高校生が市内企業の就職を検討する動機付けになったのではないかと考えている。課題は、対象者への周知不

足などが考えられる。

3 個人に対する多額の助成については否定的な意見もあるので、慎重に検討すべきである。利用状況を検証して判断したい。

市町村合併について



五十嵐涉里 議員

問 1 合併後15年が経過し、道路整備や子育て環境の整備などの行政サービスが不十分だという意見もある。合併後の市政の成果と課題についてどう考えるか。

2 将来的に人口減少や税収の減少が予測される中、どのような対策をしていくのか。

3 さらなる市町村合併も解決策のひとつと思うが、どう考えるか。

答 1 道路整備は緊急度や重要度の面から優先順位をつけて整備してきた。また、保育料の第2子以降無償化や医療費助成拡大など子育て環境整備も進めてきた。大きな課題は人口減少、少子高齢化である。

2 仕事をつくり、本市への人の流れをつくる取り組みで人口減少を抑えたい。また、市内の会社が仕事をすることで会社や働く人の収入が上がり、それにより税収が確保できる仕組みづくりを進めている。

3 近隣自治体と合併しても人口減少の解決は難しい。将来の検討課題と考

市民の声

議会だよりでもできるだけの 情報開示を！

四日町 佐藤利男さん

議会報告会11月3日に参加し感じたことは、市民目線での「情報開示」がなされていないということです。

とりわけ寿和温泉改修工事については、平成30年度約1億1,500万円の記載（既に予算執行済み）しかなく、議員さんからの説明で初めて、3カ年計画で平成31・32年度に、6億5千万円の支出予定で改修工事がなされることを知りました。これだけの巨額な工事費用をかけてまで、寿和温泉の改修が本当に必要なのでしょうか。

北部振興事務所がこの件について確認しましたが、ただ単に「施設が老朽化してきたための改修工事である」とのこと、改修後の集客見込みなどについては、現時点では考えていないとのことでした。「議会」としてのチェック機能」を果たしていただく意味からも、住民への情報開示をより積極的に行ってほしいと感じました。

日帰り温泉を楽しんでいます

四日町 佐藤京子さん

今年も雪が降り、寒さが身に染みる季節を迎えました。私は、寒くなると、近くの温泉施設に行つて体の芯から温まってきました。魚沼市には日帰りで利用できる温泉がたくさんあり、楽しんでいきます。子どもが小さかった頃は、毎週こまみの湯に行つて、広い休憩室で遊ばせていました。最近では、神湯温泉や寿和温泉にも足を延ばしています。12月になって寿和温泉に行つたのですが、楽しみにしていた露天風呂が休止中に入れません。オープンしたら、また行つてみたいです。来年は、ヘルスセンターの内湯の改修工事があると聞きました。脱衣場や浴室内の洗い場に階段があり不便を感じました。バリアフリーにしたいだけではないでしょうか。高齢者や足の悪い人が使いやすいように考えていただけると助かります。改修が終わって神湯温泉みたいに明るくきれいになれば、お客様も増えるのではないのでしょうか。温泉天国・魚沼市を市内外にPRしていただきたいと思っています。

本会議の映像配信をしています

本会議の映像をインターネットで配信しています。パソコンのほかスマートフォン、タブレット端末からも視聴できます。魚沼市議会ホームページにアクセスいただき、ぜひご覧ください。また、会議録も議会事務局、図書館（室）、ホームページで閲覧できます。

「市民の声」の原稿を募集します

- 字数3500字程度
 - タイトル
 - 住所・氏名（匿名での掲載はできません）
 - 顔写真を同封のうえ、お寄せください。（顔写真の掲載を希望されない場合は不要です）
- 送り先 魚沼市議会事務局
〒946-1855 今泉1488番地1

今回の堀之内高校書道部です 表紙は

堀之内高校書道部は、全国や新潟県の書道公募展に出品したり、地域の行事に参加させていただったりしています。現在の部員は少ないのですが、みんなで協力しながら楽しんで活動をしています。写真は、10月下旬に行われた文化祭で書道パフォーマンスを披露した時のものです。



あとがき

輝かしい新年をお迎えるのことと、お喜び申し上げます。

昨年は、豪雪に始まり、夏は猛暑日が続く異常気象を感じた1年でありました。今年こそは、平穏な日々を送れる年になるよう願うばかりです。

議会活動に関心を持ってもらうためには、議会の活動内容を広く伝えることが大切だと思いますが、限られた紙面の中でお伝えすることも厳選しなくてはなりません。その結果、伝えたい側と知りたい側との違いが出たりと、難しさを感じさせられました。

議会を身近に感じてもらえるための斬新なアイデアを取り入れ、様々な角度から研究検討を深め、よりよい紙面になるよう努力したいと思います。

(星野みゆき)